

白山ろく町会協議会との意見交換会で寄せられた意見（令和6年12月協議）

No	白山ろく町会協議会からの主な意見	常任委員会での協議内容
1	以前は地域ごとに過去の災害をマップに落とし込んだものを作成していた。防災の観点から非常に役立つものであったので、今後もそういったハザードマップがあるといい。 能登半島地震の際の孤立集落は、白山ろく地域でも起こり得るのでしっかりとしたシミュレーションが必要だ。	現在土砂災害が想定される区域を含めた新たなハザードマップを作成中であり、今年度末に各世帯に配布をいたします。新たなハザードマップをもとに各町内会等において、地域の危険箇所の把握と避難場所及び避難誘導などを検討していただきたいと考えております。また孤立集落対策につきましては、避難所等への備蓄を進めているほか、今後訓練等を通じて対策を検討いたします。 自助共助の部分で、各世帯で水や食料、簡易トイレなどの備蓄をお願いいたします。
2	町会と市の連絡体制について、町会の役員に市の情報を伝えるため、もっと手厚い方法を考えられなか。 結ネット、LINEなどのようにタイムリーに伝達するシステムを構築しては。LINEWORKSなどもよい。	町内会向けのコミュニティツールについては、災害時においても安否確認や迅速な情報伝達に活用できるため、有効なもの等をとらえておりますが、一方で経常的なコストを要することや、高齢者などツールを利用できない住民の方もみえるなど、課題もあると認識をいたしております。
3	しらみね大学村には100人の学生が参加し、地域に貢献してもらっている。これをもっと活用したい。	しらみね大学村は県内外の大学生による自主的な活動でありまして、地域の課題に対し解決できそうなものを、主体的に実現しようとするものであります。現在は白峰地域を中心に活動していらっしゃいますが、その他の地域でも活動拠点や交通手段等の条件が整えば、対応できる可能性はあります。